

IT リスクの動的特性を考慮した対策案組み合わせ最適化技術の 提案と評価

梅原 悠平[†], 安藤 駿[†], 佐々木 良一[†]

IT システムへの社会的依存度の増大に伴い, 適切にリスクを分析して対策を導く必要性が増大している. その要件を満たすため著者らは多重リスクコミュニケーター **MRC** を開発してきた. **MRC** は, 対立するリスクへの対応するため組み合わせ最適化問題として定式化し, 関与者間でのリスクコミュニケーションを行いつつ対策案の組み合わせについての合意形成を支援するシステムである. **MRC** で選ばれる対策案は計画段階時に決定するが, リスクは時間経過にともない運用時にも変化する. 時間経過にともなう変化にはセキュリティ意識の変化や対策への慣れなどがある. 従業員のセキュリティ意識によって対策効果は変化し, 対策への慣れによって利便性は向上する. 本稿ではこれら運用時の動的変化に着目して最適解を求めることで状況に適した最適な対策の組み合わせを決定する **MRC** の拡張方式を提案する. あわせて, この方式を実験を通して適用することにより, 計画段階に施行した対策の組み合わせが対策効果などのパラメータ変化によってどう変わるかを示すとともに, 有効性の検討結果を報告する.

[†]東京電機大学